

酒々井町

郷土研究会会報

第111号

平成16年1月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

年頭に寄せて

会長 青木朝次

新年明けましておめでとうござい
ます。皆様には清々しく新年を迎え
られたこととお慶び申し上げます。

去年は短い夏もあつという間に通
り過ぎ早い秋を迎えその上冷夏で米
の不作を初め農産物の減産という置
き土産を残して新年を迎えました。

イラク情勢は今だ混沌として血な
まぐさいニュースが続き、私たちに
とって対岸の火事ではなくなりまし
た。早く平和な時代がくることを祈
るばかりです。

酒々井町ではプリミエール酒々井
の完成で生涯学習がますます盛んに
なることは誠に喜ばしいことです。
私たちの酒々井町郷土研究会もこ
のような充実した心をもって基本に
返り皆様に喜ばれる郷土研であるよ

うに運営委員一体となり魅力的な行
事を計画し旧にも倍して頑張る所存
でございます。

どうぞ今後とも会発展のためご指
導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し
上げます。

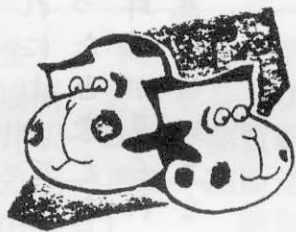
迎春

平成十六年元旦

「原氏とユズリハ」

佐倉高校教諭

外山信司



本佐倉城は戦国時代の千葉氏の居
城であり、その城下には千葉氏の一
族家臣が多く住んでいた。史料によ
って、原胤長・邦長父子が母や妻子
とともに、城下に住んでいたことが

わかる。

原氏と言え、生実城（千葉市）
を本拠地とする千葉市の重臣で、の
ちに臼井城（佐倉市）を奪取し、千
葉市を圧倒したこと知られる。し
かし、本佐倉城下に居住していたの
は、代々千葉市の奉行人をつとめ、
小林城（印西市）・笠神城（本埜村）
を拠点とした一族であった。

とところで、千葉妙見宮（千葉神社）
に伝わった『千学集抜粹』には、次
のようなエピソードが見える。

一、原のはじめ、正月十三日頼道
生れ給う、初湯の上ゆつり葉一もと
ふりかゝる目出度事なれハと、原の
紋に九曜にゆつり葉をなされける、

（『妙見信仰調査報告書二』）

平安時代末の人物で、原氏の祖で
ある頼道（普通は常宗とされる）が
産湯をつかつていた時、ユズリハの
葉が降りかかったので、原氏の紋であ
る九曜にユズリハを加えたものにな
ったという。

右の文にも「目出度事」とあるよ
うに、ユズリハはめでたい植物とさ
れてきた。「譲り葉」という名が示
すとおり、常に古い葉が新しい葉に
交代し、冬でも鮮やかな緑を失うこ



ゆすりは (とうだいぐさ科)



①白井田宿内砦跡
②長源寺
③白井城跡

とはない。この瑞々しい生命力は、昔の人々を感嘆させずにはおかなかつたのである。現代の私たちも、新年の飾りにユズリハを用いている。鏡餅に添えられた葉といえ、若い方もおわかりいただけだろう。過日、白井城の支城として唯一良好な状態で残されている白井田宿内砦跡を訪ねた。宿内公園となつてい

るが、一面ユズリハの群生地、下総地方でこれほどの群落を見たことはないほどである。宿内砦の直下には、道誉上人の巨大な五輪塔がある。白井城主となつても、原氏は本拠地生実城に近い大巖寺(浄土宗)を保護し、その住職であつた道誉上人に深く帰依した。上人の開いた長源寺は「新大巖寺」

郷土研究会を永い間リードされ酒々井町史編纂に尽力された前会長・会田秀雄さんが、去る十二月九日永遠の眠りにつかれました。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

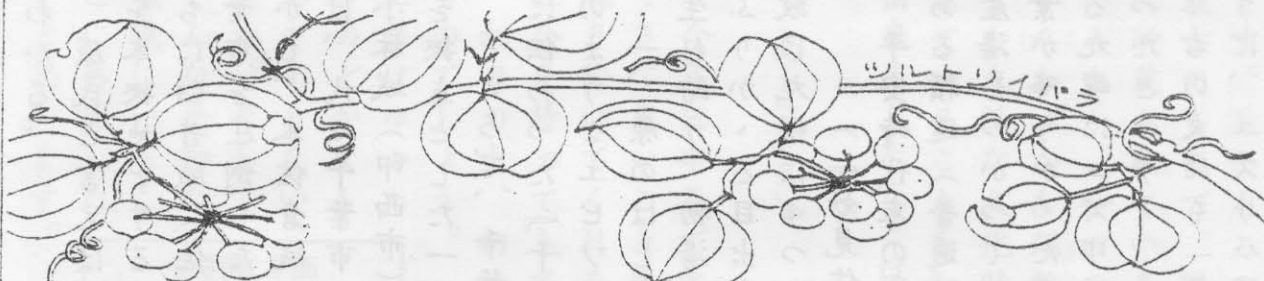
合掌

野草観察会に参加して

奥山道子

十月九日参加者 一九名、講師・亀井香久乃さんとJ R酒々井駅から歩いて蒨賀神社を通り上岩橋の里山のふもとと刈田の畔や小川の土手を観察。

子供の頃の呼び名の「アカマンマ」はイヌタデ、同種で花タデ、桜タデ。花火遊びに使ったカヤツリ草の仲間達ヒメクス、タマガヤツリ、ヒデリコ、コゴメガヤツリ、等々。ここを二時間ぐらい歩いただけでも野草は百種位あるとか、心踊る思いです。上郷自治



会館ではおいしい味噌汁も用意されていて昼食を。その後勉強会、おだやかな秋晴れの日の散策で野草から得た小さな驚きでした。

佐倉道を歩く (1)

浜口信義

佐倉道は江戸時代城下町佐倉と千葉寒川湊を結ぶ道で、年貢米や諸物資が行き来した。この道を四回に分けて歩く。第一回は十月十七日、十八名の参加者がJR酒々井駅に集合した。会長、副会長の挨拶の後、八時二十六分の電車に乗り東千葉駅で下車して千葉神社へ向かった。千葉氏の守護神妙見様を祀る千葉神社は秋晴れのもと朱塗りの楼門形尊星殿、二階建ての本殿が美しく映えていた。高木副会長の解説を聞き、これから道中の安全を祈願して広小路交差点へ行く。ここが国道五十一号の起点で、佐倉道もほぼ同じルートを通っている。歩道のない国道を一行になって歩く横を大型トラック、トレイラーなどが走る道は緊張する道でもある。



千葉神社

坂道を上がると左に石段があり、これを上がると大六天神社で境内は広く樹木も大きく古い社を思わせる。本殿の正面、左右の壁の三面に七福神の神が二体ずつ計六体が描かれているが大黒天がなく六福神であった。これから千葉刑務所の門前を通り桜木交差点を左折して市営霊園で小休止する。昼食場所の加曾利貝塚公園は国道から少し奥に入った所にあり十時三十分頃についた。加曾利貝塚はわが国最大の縄文貝塚で国指定の史跡である。広い園内には貝層、住居跡が観察出来る施設。その他竪穴式住居が復元されている。昼食後はこれらの施設を見学してモノレール桜木駅を一時すぎ出発の早めの帰宅となった。

本佐倉城跡記念講演会開催

本佐倉城跡が国指定史跡になって五周年を記念して、十月十九日に講演会・シンポジウムがブリミエール酒々井で開かれました。思えば五年前、本佐倉城跡が千葉県唯一の城郭の指定史跡になったことを郷土研の役員会で知り、皆で喜び町の歴史に改めて思いをめぐらしたものでした。講演会では開始時刻前から会場は満員になり参加者の熱意が伝わってくるようになっていた。午前中藤木久志立教大学名誉教授の「戦国の村と町と城」についての講演があり、午後のシンポジウムでは外山信司さんの「戦国時代の千葉氏」、木内達彦さんの「発掘された本佐倉城」、柴田龍司さんの「本佐倉城の特色」、遠山成一さんの「本佐倉城の城下の町と交通」について豊富な史料を使って詳しい解説がありました。討論会でも客席からハイレベルの質問がいくつも出され、本佐倉城跡が多岐の人に関心を持たれ研究対象となつていくことがわかりました。基調報告された四人の方々は郷土研でも郷土史講座などで話を伺っていただきますが改めて本佐倉城跡について関心を深めた一日でした。

靈驗あらたかな

日帰り見学会

高橋継子

十一月四日、三十三名を乗せた町バスは季節が移ろうとしている国道を長柄町方面に向け走りました。

はじめに伝教大師創建の長福寿寺へお参りしました。日本一長い勅号を持つというこのお寺は、中世には西の比叡山に対し東叡山と称せられ、末寺三〇八力寺を有した大古刹だったそうですが、今はその面影は求められません。

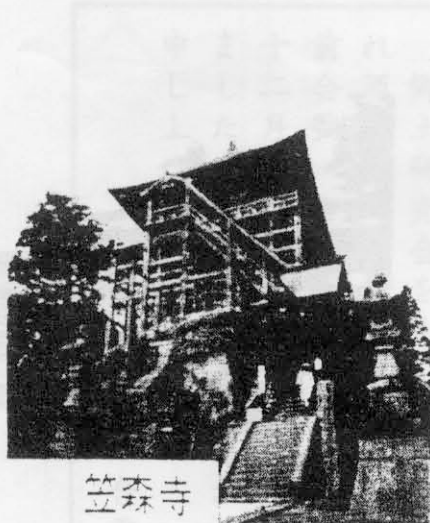
次に同じく伝教大師が開いたという笠森観音に参詣。このお寺へは当町へ移住してまもなくの頃、今から二十数年前に坂東三十一番札所の名に惹かれ、家族でお参りしたことがあります。

この度は、配付された史料に目を通し由緒を勉強させて頂きました。女坂参道の途中にある「子授けの楠」の根元にぼつかりとあいた、言い伝えがある穴をくぐり抜けたその晩、次男の嫁から第二子懐妊の知らせがありました。前立観音の靈驗あ

らたかさには恐れ入りました。樹林を抜けて登り、山上の岩の上にもそびえ立つ高さ三〇メートルという崖造りの観音堂にお参りしました。坂を登れる体力に感謝しつつ。回廊に立つと、四方さえぎるものない雄大な眺めでした。

昼食後、飯尾寺の門をくぐると、二〇〇段ほどの階段が眼前にそびえていました。この階段は登る自信がなく回り道してお参りした私には、御利益が少なくてしょうか。このお寺の不動明王坐像は国の重要文化財とか。

安房の名工の作と言われる欄間の龍の彫刻は、木彫りを趣味とする私にとって一際目を引くものでした。お不動様を守るべく構えている様からは鋭い威圧を感じました。



笠森寺

最後に千葉氏縁の眼蔵寺にお参りしました。境内にある寺宝の乳がない「梵鐘」も国の重要文化財だそうです。しかもこの種の梵鐘では県内最古のもので、現在東京国立博物館に所蔵されている梵鐘を含めて三例のみとか。今回の見学会で、酒々井からわずかな距離の場所に、このよくな立派な文化財が存在し、保存されていくことを知り、つぶさに見学出来ましたことは大きな収穫でした。

あとがき

今年には申年です。良いことを持つてきて悪いことは「去る」といつて取り除いてくれるでしょう。平和な社会を持つてきてほしいと思います。初日の出、初詣での人も大層なものでしょう。正月はゆったりのどかなものでありたいです。そしてそんな平和な環境にいることに感謝したいと思います。

長柄町方面
収支報告書

収支	
1,300円×32=	41,600円
支出	
食事代	33,600円
諸雑費	7,900円
	41,500円
残	100円

見学

案内

名勝探訪



鎌倉・極楽寺方面

一月十八日(日)
 雨天代替一月二十五日(日)
 JR鎌倉駅から江の電に乗換え四つ目の極楽寺駅で下車すると鎌倉で唯一の真言律宗寺院で多くの国重文が安置されている駅前の極楽寺により次いで長谷寺(長谷観音)へ、続いて青空をバックに鎮座まします美男といわれる大仏(高德院)に参拝をして長谷駅から鎌倉駅に戻る。
 探訪箇所はいづれも近接しているので午前中で済ませ、多少遅くなるが若宮大路から鶴岡八幡宮に参詣、小町通り辺りで少し遅い自由昼食の予定、当日の好天を祈る。



佐倉道を歩く(二)

二月二十日(金)

雨天代替二月二十三日(月)
モノレール桜木駅より出発、

左に大聖寺の仁王門と鐘楼が見える、ここで小休止。

ここから間もなく御成道を横切りバス停菴屋前まで来ると茅ぶき屋根の民家や竹林を見ながら歩き、四街道市内に入り県道と交わる吉岡交差点に着く。
 今回は見どころも少なく、距離も短い所を歩きます。

日帰り見学会

芝山方面

三月二日(火)

国指定史跡の殿塚(高さ一〇メートル・長さ八メートル)・姫塚(高さ六メートル・長さ五メートル)は六世紀築造の前方後円墳である。発掘調査で数多くのはにわが出土し、その作りの見事なことで一躍有名になった。このにはわは、町立(墳は

にわ博物館と芝山はにわ博物館に陳列されている。

芝山仁王尊は観音教寺の山門にあり、本尊の十一面観音菩薩よりも有名で、黒塗りの仁王尊である。火災泥棒除け、安産に御利益があるといわれる。

三里塚御料牧場記念館は新東京国際空港の建設に伴って、栃木県高根沢町に移転した宮内庁下総御料牧場を記念して昭和五十六年(一九八一)に開館した。敷地内には大きなトチの木や茅葺きの貴賓館が残っている。

郷土研日誌

月日	内容	人数	月日	内容	人数
9/25	会報編集	4	11/4	長柄町方面	32
9/27	印刷	4	11/25	研修部会	5
9/29	発送	17	11/28	会報編集	6
10/3	日帰り下見	2	12/3	平井方面	21
10/6	野草下見	5	12/5	運営委員会	22
10/9	野草観察会	19	12/6	史談会	11
10/10	日帰り受付	5	12/13	会報編集	6
10/17	佐倉道	19	12/17	古文書学習	10

郷土研行事案内 平成16年1月～3月

<p>史談会</p>	<p>1月 休講</p>	<p>2月 7日(土) 13:30 公民館 「古今佐倉真佐子」⑧ 講師：高橋健一先生</p>	<p>3月 6日(土) 13:30 公民館 「古今佐倉真佐子」⑨ 講師：高橋健一先生</p>
<p>古文書を 読む会</p>	<p>1月 休講</p>	<p>2月 17日(火) 13:30 「島田家文書」⑧ 社会福祉協議会 講師：青木朝次会長</p>	<p>3月 休講</p>
<p>名勝探訪</p>	<p>1月18日(日) 『鎌倉・極楽寺方面』 JR酒々井駅集合 7:00 雨天代替 1月25日(日) 費用 ホリデーパス2300円プラス江の電賃 場合によりコース変更あり 行程 JR酒々井駅——鎌倉駅——極楽寺駅——極楽寺——長谷寺 ——高德院——長谷駅——鎌倉駅 (解散・自由昼食)</p>		
<p>野草の会</p>	<p>2月13日(金) 『七草粥を食べる会』 会場 中央公民館講堂 受付 11:00 会食 11:30 お手伝いして下さる方は 会費 700円 9:00頃 調理室に 定員 70名 おいで下さい。 申込受付 参加希望者は最寄りの運営委員にお申し込み下さい。 なお総会当日(2月1日)にも受け付けます。</p>		
<p>街道を歩く</p>	<p>2月20日(金) 『佐倉道』② 雨天代替2月23日(月) 集合時間・場所 8:10 JR酒々井駅 行程 JR酒々井駅——都賀駅——モノレール桜木駅——大聖寺—— —吉岡交差点——四街道駅——JR酒々井駅 (徒歩約5キロ) (自由昼食) 解散15:00頃</p>		
<p>日帰り 見学会</p>	<p>3月2日(火) 『芝山方面』 定員34名 町バス使用 公民館前集合 9:00 申込受付 2月1日(日) 13:00 (公民館ロビー) 参加費 2000円(入館料・昼食含む) キャンセル 実施日3日前までに青木朝次宅へ() 行程 公民館——殿塚・姫塚——芝山仁王尊・ミュージアム・はにわ館——昼食 ——三里塚資料館——公民館 (16:00頃)</p>		
<p>第28回 総会</p>	<p>2月1日(日) 中央公民館 開会13:30 受付 13:00から(公民館ロビー) 年会費 1000円 議題 ・平成十五年度事業報告及び決算の承認について ・平成十六年度事業計画案及び予算案について ・その他</p>		